

【22卒】就活生座談会 夏インターン評価編

【調査趣旨】

オンライン採用下での「トップ就活生のインサイト（彼らを動かす心理）」を知るため、就活の軸や受験業界の異なる22卒就活生3名による座談会を実施しました。

2020年10月期の調査テーマは、夏インターンの選択軸／各施策の評価／フォロー状況などです。

今後のインターンや参加者フォロー施策の設計にお役立てください。

株式会社ピボット STUDENTS' REPORT 編集部

MAIL : support@pivot-inc.co.jp

【調査概要】

実施日	2020年10月
参加者	Aさん 22卒学生 旧帝大クラス 長期留学経験あり
	Bさん 22卒学生 旧帝大クラス 国際系サークル所属
	Cさん 22卒学生 旧帝大クラス 短期留学、有力サークル幹部
司会	21卒学生 旧帝大クラス 外資コンサル入社予定
形式	座談会（オンライン）

●インターンの話に入る前に、それまでの就活について教えてください。皆さんはいつから就活を開始しましたか？

- A 私は留学後から徐々に。本格的に始めたのは帰国後の春先くらいです。
- B 5月末頃から選考や選考対策を本格的に始めました。ただ、正確には3月から少し対策を始めていました。きっかけは、先輩にエンカレッジのグループへの参加を誘われ、エンカレッジのメンターと面談をしたり、キックオフイベントに出たりしたことです。
- C 4月に始めました。もともと先輩を見ていて「3年生になったら就活するもの」と思っていたので、春先の短期留学から帰国し、サークルの新歓活動にひと段落ついてから始めました。

●次に、皆さんの志望軸について教えてください。

- A 3つあります。①海外志向が強いので日系企業の海外支援ができること、②社会貢献ができること、③頭を使う仕事ができること、です。
- B ①身近な人の役に立てること（社会に大きな影響を与えられるというより、目の前の顧客に喜んでもらいたい）、②風通しの良さ、の2点です。
- C 私は当初、直感的に華やかで楽しそうな広告業界や、自分が一緒にいて楽しい先輩のいるデベロッパーに興味を持っていました。インターンを経験した今は、①人々の日常を豊かにできる仕事（自分のアウトプットが目に見える）、②業界を牽引する企業（企業としてもたらせるインパクトが大きいほどやりがいがある）、③成長できる環境（尊敬できる人たちの中で働くのが1番のモチベーション）、という3つを仕事軸として持っています。さらに面接では言いにくいのですが、④なるべく東京で仕事をしたい、という気持ちもあります。

●では次に、夏インターン参加企業と、その選択軸について教えてください。また、どのような媒体から情報収集していましたか？

- A 私の選択軸は「なるべく広くかつ何かしら興味がある企業」でした。興味の強い企業しか自力で業界研究をしようという気持ちになれなかったのが、インターンに参加することで、強制的に企業研究を進めようと思っていました。受験した企業群は、コンサル、金融、外資メーカーなどです。参加したのは主にコンサル、金融です。あとは、エンカレッジや Goodfind の一括エントリーも利用して、ベンチャーも練習で出していました。合計で 20 社くらい出したと思います。情報収集源としては、もともと興味がある企業は自分から細かに WEB を確認していましたが、積極的に興味があったわけではないけど有名どころの企業は、外資就活やワンキャリアを見ていました。
- B 私は、①志望業界(コンサル、銀行など)であること、②絞り込みすぎるのは怖いのでなるべく広く見ること、の2点を意識して選びました。受けたのは、外コン、総研系、保険、金融の10社強です。そのうち参加した企業は、総研、保険会社、金融の5社程度です。情報収集源は、外資就活と、気になる企業のネット検索でした。

C 6月末まで授業と新歓で多忙だったので、周りより遅く7月から出せるところのみ応募しました。デベ、メーカー、その他名前の知っている企業&先輩が受けた企業を幅広く受けました。エントリーは20社程度です。参加したのは、デベ、ネットサービス会社、食品メーカー、カード会社などの6社です。情報収集源としては、ワンキャリアや外資就活をインターン検索に使用していました。マイナビやリクナビにも登録していましたが、情報が多すぎて見づらかったです。選考前には、ワンキャリアでアーカイブの企業説明を見たり、採用HPで企業理念等を確認したり、ESや選考ポイントを調べたり、外資就活のコラムやYouTubeの解説動画で2社比較をしていました。また、エンカレッジや先輩は、就活のペースメーカーや相談相手となってくれました。

●それぞれの夏インターンの本音の評価と、そのフォロー状況について教えてください。

A 銀行の1Dayに参加した際は、ワーク量は適切でしたが、初めてのオンラインでのインターンだったためとても疲れました。ただし、もともと志望度は高く、インターンで決めようとも思っていなかったので評価は下がっていません。今後、参加者限定のイベントが紹介されるようです。

B 私もAさんと同じインターンに参加したのですが、よく練られたプログラムで、意思決定のポイントがわかりやすかったです。企業説明も魅力的で、高い志望度がさらに上がりました。気になったこととしては、フィードバックが曖昧な印象でした。グループ全体に対する当たり障りのないコメントで、あまり自分に刺さらなかったです。休憩が1時間に1回くらいあり、他社より疲れずに臨めました。

A フィードバックの件ですが、社員さん1人が複数のグループを同時に見ていたため、大変そうでした。グループワークをちゃんと見切れなかった、というのはあると思います。

●Aさんの他企業のインターンについての評価も聞かせてください。

A 私は外コンのインターンにも参加したのですが、参加した企業の中では1番よかったです。参加の1週間ほど前に当日使用するチャットアプリなどのWebツールの準備の連絡が来て、準備が完了したかどうか社員さんが把握するようになっていました。インターン中もトラブル対応が素早く、とても良かったです。Slackというチャットアプリ上でトラブル対応用のチャットがあり、そこで伝えるとすぐに社員さんに対応してもらえました。Slackでは社員さんが「お疲れさま」など明るい雰囲気でも投稿してくれ、会社

のカルチャーがよく伝わってきました。ただ、通信量は気になりました。音声通話ツールを複数併用していたので、とても重かったです。一方で志望度はかなり上がりました。対面でなくても社員さんの良い雰囲気が伝わってきたこと、それを感じられるプログラムであったことが影響しています。

●なるほど。チャットアプリを導入すると、コミュニケーションはやりやすくなるかもしれないですね。他の企業はどうですか？

A 専門商社 A では、最初の数日は連続開催で、最終日だけ離れた日程でした。良かった点は、「社員に仕事についてインタビューしよう」というプログラムで、社員訪問の機会が設けられていたことです。具体的な業務も知ることができ、社員さんの仕事への熱い思いを知ることができました。その一方で、最終日だけ離れた日程でなくても良かったのではと思いました。特にその間に何かあるわけではなく、インターンのモチベーションを取り戻しにくかったです。また、司会の方の段取りが若干悪かった印象もあります。時間が押した時に、次のプログラムの時間どうしましょう？と学生に聞いていたのですが、それを学生に聞かれてもという感じでした。チームの人数も 8 人と多く、全員がディスカッションに参加するのが難しかったです。インターン後のフォローは特にありませんでした。

A 保険 A 社は、複数日の連続開催でした。良かった点としては、様々な種類のワークが盛り込まれており、業務理解に繋がった点です。また、6 人チームでディスカッションしやすかったです。改善点としては、毎日メンターが違い、別の人からフィードバックをもらう仕組みである点です。様々な人のフィードバックをもらえる反面、1 日の限られた時間のワークだけを見て、自分について分かるのだろうかと思ってしまいました。4 日間同じ人に見ていただけたら、より深いフィードバックをいただけたのではと感じました。また、タイムスケジュールを最初に教えてもらえなかったため、どのようなワークが次に来るのか身構えられなかったのと、ワークが残業前提で大変だったという点も挙げられます。一部の優秀者には、今後のインターンシップの選考ステップで優遇があるそうです。最後に金融 A 社では、対面形式の 1Day でしたが、やはりオフラインの方が、雰囲気や熱量などの言葉以外でその人を形成しているものが伝わり、やりやすかったです。メンバー間でのワーク量の分担などもスムーズでした。

●参加した企業は今後も本選考を受ける予定ですか？

A 商社 A と保険 A 社は、インターン参加後本選考は受けなつもりです。企業理念や業界が自分の軸からずれていると感じました。

●次に B さんはいかがですか？

B 私は保険 B 社のインターンに参加しました。良かったところは、実際に顧客企業の訪問ができたところです。実は、インターンはあまり楽しくなかったのですが、それは企業のせいというより、初めての長時間のオンラインインターンそのものが自分にとって苦痛だったという部分が大きいです。ただ、班の人数が多く、参加度合いにばらつきが出た点はマイナスだと思います。あまり話さない人がつまらなさそうにしていたり、逆によく喋る人の議論は錯綜したりしていました。自分に対して、もうこれ以上話すな、みたいな空気を感じることもありました。また、社員さんの話を聞くタイミングが多かったのですが、同じような話だった上に質問を求めてくるので疲れました。確かに、ワークばかりだと疲れてしまうので、話を聞く時間は少し休めるという意味では悪くはなかったのですが、であればしっかり休ませてほしいと思ってしまいました。

●そんなに同じような属性の社員さんが登壇していたんですか？

B そういうわけではないのですが、私はプロジェクトの細かい差異などには興味がなかったもので、似た話にしか聞こえなかったですね。

●私が経験した昨年の就活では、社員さんの話を聞くタイミングは休憩、という印象ではなかったんですね。背筋伸ばして集中して聞かなきゃと思って気張っていましたが、今回はオンラインだから、というのが関係あるのでしょうか？

B 関係あるかもしれないです。オンラインだと、自分が動かないタイミングは休憩のようになりがちです。

A 保険 A 社にも同じような社員訪問がありましたが、社員は 3 人のみでキャリアも属性もかなりバラバラだったため、きついとは感じなかったです。

●ちなみに B さんは、保険 B 社の本選考は受け続ける予定ですか？

B はい、受ける予定です。プログラムとしては辛かったです、社員さんは良かったので、会社の志望度が落ちるほどではなかったです。インターンの評価はさほどではなくても（インターンに満足できなかったことに対して）自分なりに合理的な説明がつけば、志望度は下がりにません。インターンと志望度は分けて考えています。

●他の企業に関してはどうでしたか？

B オフラインで行った銀行 A 社の 1day で良かったのは、社員の方がラフな私服で参加しており、風通しのよさを感じたところです。また、オフラインだとワークがとてもスムーズで、チームも 3 人だったので議論がどんどん進みました。相手がどこを分らないのかもすぐ掴めましたし、改めてオフラインだと疲れにくいと感じました。適度に雑談できるのも大きいですね。

●フィードバックの充実度と、チーム人数の適切さは、インターンの満足度にかかなり影響がありそうですね。では、C さんはどうでしたか？

C まず、デベ A 社のインターンについてですが、連日複数日程で対面実施、企業説明＋事業説明＋ワーク＋街歩き＋発表＋FB という内容でした。良かった点は、丁寧な個別フィードバックがあったこと、社員さんと関わる機会多かったこと、文理も専攻もバラバラというチームメンバーの多様性、4 人という適切なチーム規模、参加していた若手社員と距離が近いので質問しやすい環境があったこと、です。フィードバックに関しては、個人へのフィードバック 20 分に加え、選考へのフィードバックも 20 分も頂き、とても勉強になりました。

●「丁寧なフィードバック」は、オフラインだからというのもあるのでしょうか？

C それもあるとは思いますが、同じく対面実施のデベ B 社よりもフィードバックが少なかったです。オフかオンより、むしろ学生 1 人に対する社員さんの数が大事だと思います。

●逆に改善点は何かありますか？

- C あまりなかったのですが、強いて言うと発表時間が短かったです。せっかく全日かけて議論した割には、少ししか成果発表の時間が取れずもったいないと思いました。プレゼン時間 10 分は普通の長さだと思うのですが、その後の質疑応答の時間が 2~3 分しかありませんでした。また、最後の発表だけオンラインだったのですが、接続不良でバタバタしていました。発表者はオフラインでプレゼンし、オンラインで社員に配信の形のほうが良かったのではと思います。

●他の企業はどうですか？

- C デベ B 社は 2days の対面実施で、企業説明+街歩き+ワーク+発表+FB+座談会という内容でした。良かった点は、まずは周りの学生のレベルの高く、刺激を受けたことです。同じ業界の 2 社に参加したことで、自分にとっては周りのレベルの高さが志望度に 1 番影響するかもしれないと感じました。他には単純に企業ムービーや事業規模の大きさにも魅力を感じました。最後に、社員さんの人柄と仕事に対する誇りという部分ですね。おごっているわけではなく、会社に誇りと愛を持っているのがかっこよかったです。

マイナス面としては、2 グループにメンター 1 人という体制だったので、個別フィードバックはあまり多くなかったです。フィードバックが丁寧だったデベ A 社の後に参加したので、A 社と比較してしまった面はありますが。また、社員さんが体育会もしくは帰国子女ばかりで私のようなタイプはレアなのだなと実感してしまいました。

●同じ業界の 2 社に参加し、何か違いは感じますか？

- C インターンの内容としてはデベ A 社の方が良かったです。対応がきめ細やかでした。ただ一方で、私の志望軸である「もたらせる影響力」という面で考えると、事業規模や社員さんはデベ B 社の方が良かったです。また、両社とも非常に楽しく、友達もできましたし、社会人ってかっこいいなと思いました。志望度もとても上がりました。ただ、「街づくり」の楽しさとやりがいは体験できた反面、デベの地味な面をもっと知らなくてはとも思いました。インターンでは、一番楽しく華やかな部分しか見えないので。

●なるほど。Bさんの保険B社もそうでしたが、インターンの内容よりも、業界内での立ち位置や社員のレベルやどの程度関わるかの方が、志望度に影響するのかもしれないですね。Cさん、もし他にもあったらお願いします。

C カード会社Aにも参加しました。連日複数日程のオンラインで、事前課題&ワーク、アイスブレイク、企業&事業説明、ワーク、社員取材、発表、個人とグループに対して別々にフィードバック、懇親会、という内容でした。満足度を高めた要因としては、何より実際に良い評価を得られたことが挙げられます。

●確かにそうですね。去年就活している中でも、内定をもらえたら志望度が上がる、逆に落とされたら志望度下がる、という人はたくさんいました。

C 他にも非常に凝ったプログラムだったことも良かったです。学生を後輩社員として扱う設定であったり、学生同士の相互フィードバック(社員からのフィードバックを待っている間にそれぞれが書く)があったり、ワークのテーマ設定も非常にリアルでした。驚いたことに「辛くなったら開けてください」と言われて渡された中身が手紙と商品券だったり、リソースをたくさん割いてくれていました。手紙には面接官からのメッセージが書いてあり、インターン合格の理由と、応援の言葉が書いてありました。マイナス要素としては、社員さんの空気感が挙げられます。女性社員さんが少なかったり、ある社員さんをひたすらいじって盛り上げようとしたりする雰囲気、あまり好きではなかったです。

また、デベB社などと比較すると周りのレベル感が劣ってしまったのと、目に見えないものを扱うビジネスに対する難しさも感じました。1番辛かったのは事前課題です。インターンの2日前くらいに、班でミーティングして、初日の発表準備をするようにとの課題が与えられました。それなら開催日数をプラスしてプログラムに組み込んでほしいと思いましたし、他のインターンにも参加している中でこれほど重い事前課題をこなすのは大変でした。また、チーム人数として6人は多く感じました。

●このカード会社Aのインターンを通して、志望度の変化はありましたか？

C 志望度は下がってしまったのですが、早期ルートに乗れそうなので受け続けようと思っています。

●他の企業に関しては何かありますか？

C 残り2社について、簡単にコメントしようと思います。

IT会社Aは、3時間半のインターンで、アイスブレイク→社員の仕事紹介→軽いワーク→質疑というプログラム内容でした。プラス面は、明るくて活発な憧れの対象となる社員さんと出会えたこと、事業領域の広さとポテンシャルを感じられたことです。マイナス面としては、3時間半は短すぎ、もう少し長くても良かったです。

食品メーカーAのインターン内容は、企業説明→ワーク→発表→質疑でした。プラス面は、穏やかで丁寧な社員さんに出会えたこと、生活に身近な商品だったこと、です。また、家にその会社の商品が届いたのも嬉しかったです。マイナス面としては、事業規模がデベロッパーなどに比べると小さいこと、商材が限られることです。また、社員さんが謙虚で低姿勢すぎて、もっと自分の仕事に誇りを持ってほしいのにと感じてしまいました。

●志望度の変化はありましたか？

C メーカーに対する志望度は下がってしまいました。同じものにこだわり続けられるかどうかと、企業としてもたらせる影響力に疑問を感じてしまいました。また、地方勤務への躊躇もあります。

●Cさんはオンラインとオフライン、どちらもご経験されていますが、オンラインならではの特徴は何か感じましたか？

C グループワークの進め方についていくつか感じることはありました。まず、人数は4人までが適切な気がしました。それ以上になると発言のタイミングが被ってしまうことが多くなります。また、周りが今何をやっているかが分からないので、逐一言葉にして伝えるよう意識しなければと思いました。モチベーションを上げる工夫も必要で、小刻みな休憩や、たまにあるサプライズ等は、よかったですね。

(後編へ続く)

座談会の後編をご覧になりたい方は、
個別にお問合せください。